

つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 384号 2011.5.21 発行 社会政策研究所

維新ペースに警戒感 「合意形成」他党派が注文

大阪日日新聞 2011年5月20日

改選後初の府議会定例会が開会した19日、過半数の議席を擁する大阪維新の会は、公約に掲げた大都市制度検討協議会設置などの条例案を会期中に提出する方針を確認したが、「数の力」に対する他党派の警戒感は強い。「少数会派の意見を尊重したい」と浅田均議長は話すが、他党派が主張する「合意形成」の議会運営に至るかは見通せない。

■矢継ぎ早の改革案

4年で大阪をどう変えるか。短い時間の中で大改革をやらなければならない。開会前の維新の会議員団総会で、松井一郎幹事長は改革機運を高めるため「時間的制約」を強調した。

団総で確認した提出予定議案は大都市制度をはじめ、議員の定数削減や議員の監査委員選任数削減、さらに自民党が提出する府施設への国旗掲揚条例の内容に教職員が君が代を斉唱する際に起立するルールを盛り込んだ条例案の計4本に上る。

矢継ぎ早な維新の会の動きに苦言を呈したのは、対案をちらつかされた自民党の花谷充愉幹事長だ。

君が代斉唱の起立のルール化は維新の会代表の橋下徹知事も言及していることを踏まえ、花谷幹事長は「知事提案と議員提案の違いが不明確。知事がそう思うなら自分で提案すべき」と維新の会による議案提出のプロセスを疑問視。大都市制度についても「(大阪、堺両政令市議会との合同ではない)府議会だけでは意味がない」と指摘する。

■議会が判断

「どの会派でも(議会運営を)調整できない」と副議長選への表明を見送った第2会派の公明党。過半数の議席を持つ維新について、清水義人幹事長は「権限と責任は一緒に来ると自覚してほしい」と語り、「合意形成」の注文を付ける。

議員提出議案の可否に「数の力」は必要になるが、橋下知事は「数の力ばかりでやっていると他の議案が通らなくなる。どういう時に数の力で突破するかは議会の判断だ」との見解。

果たして議会運営はどう進んでいくのか。

「意見対立の時は多数決が必要だが、話を聞かせてもらう立場が基本」と就任会見で語った浅田議長の手腕が本定例会で試される。

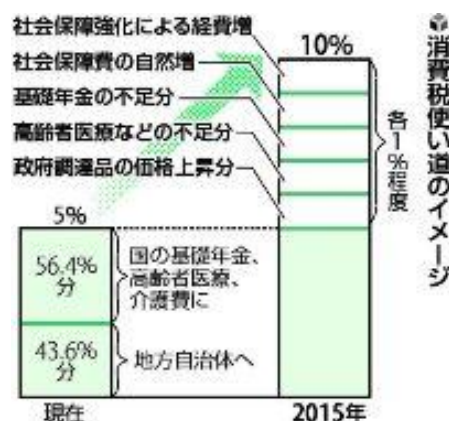
2015年までに消費税10%…社保と一体改革

読売新聞 2011年5月20日

政府が6月下旬にまとめる社会保障と税の一体改革案に、2015年までに消費税率を5%引き上げて10%にすることを盛り込む方向で調整に入ったことが19日、明らかになった。使い道を社会保障目的に限る目的税とする。高齢化で毎年1兆円余り膨らむ社会

保障費をまかなうには、消費税率の引き上げが不可欠と判断した。政府の「社会保障改革に関する集中検討会議」で具体的な検討を進める。

消費税収は1%が約2・5兆円で、5%引き上げると税収は年12・5兆円になる。政府内ではこの5%分の使い道について〈1〉社会保障改革による経費増〈2〉基礎年金の国庫負担の財源〈3〉高齢化に伴う社会保障費の自然増〈4〉高齢者医療・介護などの財源不足の穴埋め——にそれぞれ1%程度ずつ充てる案が有力だ。残りの1%分は、消費増税に伴って政府の物資調達費が増加する分に充てる方向だ。



ひょうたん島へ 届け歌声 ぼくらはくじけない～進め～♪



産経関西 2011年5月19日
ビデオレターの収録に向け、元気いっぱい合唱する園児たち＝大阪府河内長野市

東日本大震災の被災者を応援しようと、大阪府河内長野市の清教学園幼稚園（植田幸園長）に通う園児たちが、作家の故・井上ひさしさんが作詞した「ひょっこりひょうたん島」のテーマソングを歌う様子を市がCD-ROMに収録し「ビデオレター」として岩手県大槌町にプレゼントした。ひょうたん島は同町の蓬莱島がモデルとされており、18日にCD-ROMを発送した市では「これを見て、少

しでも元気を取り戻して」と話している。

河内長野→岩手・大槌町 園児らがビデオレター

河内長野市は、関西広域連合による割り当てから、大槌町で支援活動をしている。東北出身の井上さんと縁が深い大槌町には、井上さんの長編小説「吉里吉里人」のモデルとされた吉里吉里地区もあり、震災後、井上さんの妻、ユリさんからは義援金と支援のメッセージが町に届いている。

蓬莱島は、ひょうたんの形をした無人島で、震災で灯台や鳥居が全半壊し、陸とつながる防波堤は消滅、孤島になった。島の中央に立つアカマツは、岩盤と岩盤の隙間に強く根を張っているが、津波で折れた枝や茶色く変色した葉も目立つ。

町は正午を知らせるチャイムとして、テーマソングを流していたといい、町民が愛してやまない故郷の歌だ。「ビデオレター」で園児たちは、軽妙なリズムに体を揺らしながら、「ぼくらはくじけない。泣くのはいやだ。笑っちゃおう。進め！」と元気よく合唱。年長組の男児（5）は「被災地のお友達に頑張ってもらいたい」と話していた。

被災地の障害者支援、遅れ深刻 東近江の支援員調査

京都新聞 2011年5月20日
被災地の障害者の実情について話す井村さん（東近江市・障害者支援施設あかね）

東日本大震災で、障害者への支援が遅れている。滋賀県東近江市の障害者支援施設あかね支援員の井村悌規（よしのり）さん（40）は、現地で救援活動を行う団体「日本障害フォーラム（JDF）」の一員として4月に9日間、宮城県沿岸部の障害者の実情を調査した。「避難所



にも行けず、半壊した家で『死にたい』と言う障害者もいた」と深刻な状況を話している。

井村さんは石巻市など3市町の避難所20カ所以上を回った。障害者がいる8世帯の要望を聴き、食料を届けたり、ボランティアの支援を要請したりした。

石巻市では、避難所の前でおどおどしている男性(61)を見かけた。話し込むうち、精神障害と知的障害があるらしいことが分かった。男性は避難所に入らず、津波で半壊し、がれきだらけの自宅で1カ月以上暮らしていた。

自宅に行くと電気、水道、ガスは使えず、ペットボトル数本の水とカップ麺数個、懐中電灯しかなかった。「避難所に移った方が良いのでは」と助言したが、男性は「迷惑をかけたらいかん」とかたくなに拒んだ。理由を尋ねてもはっきりしない。避難所での対人関係に不安があるようで、最後には「早く死にたい」と漏らした。

山元町の避難所では、片足が無い身体障害者の60代女性がいた。義足と車いすは津波で自宅ごと流され、介護ベッドの代わりにテーブルの上にふとんを敷いて寝ていた。「食料はあったが、つえや補聴器の電池といった福祉関係の物資はほとんど無かった」(井村さん)。自閉症の子ども2人を抱え、集団での避難所生活に疲れ果てている母親もいた。

JDFは宮城など3県に拠点を設け、障害者の安否確認や物資提供などの支援を行っている。住所など障害者に関する情報の提供を各市町村に求めているが、ほとんどの自治体が「個人情報」を理由に拒否。支援の遅れを招いている、という。

井村さんは「多くの障害者が自分の障害について語れず、孤立している。調査でもどの市町からも情報が得られず、避難所で『障害のある人を見かけましたか?』と尋ね歩くしかなかった」と話す。

滋賀県内の障害者・難病13団体は、被災地の障害者支援に使う寄付金を募っている。問い合わせはきょうされん滋賀支部内・共同行動実行委TEL0748(46)5528。

障害者に農作業体験を 畑を無料で提供

大分合同新聞 2011年5月20日

障害者の農作業体験の取り組みを始めた一ノ瀬さんと畑＝三重町

大分市福良の農業、一ノ瀬二彦さん(63)が、豊後大野市三重町金田にある畑(借地・計約1千平方メートル)を障害者に農作業体験用として活用してもらうことにした(無料)。「障害があると、なかなか農作業をする機会に恵まれないのでは。野菜や花作りをしてみたい人は、気軽に声をかけてほしい」と、希望者を募っている。

一ノ瀬さんは40年ほど前、別府市の「太陽の家」で障害者がパイプ椅子を組み立てる仕事をしている様子を見学した。1本のネジを留めるまでにかかる時間は約10分。それでもあきらめずに一生懸命作業を続ける様子に心を打たれた。以来、「障害者でも機会さえあれば何でもできる。自分もいつか、何かの機会を提供したい」と考えていたという。

畑は3年ほど前に借りて野菜や花を育ててきたが、使用していない場所も多かったため、貸し出しを思い立った。「植え付けや収穫の体験がしやすいイモがお薦めだが、何を植えるかは相談に応じます」と一ノ瀬さん。植え付けの準備や草取りも一ノ瀬さんが行うという。

申し込み、問い合わせはTEL097・595・0523へ。



介助法まとめ、被災地に 関学生・岸田さん

朝日新聞 2011年5月20日

車いす生活の母を持つ神戸市北区の大学生が、東日本大震災の被災地で障害者支援に役立ててもらおうと、介助方法をリーフレットにまとめた。震災翌日から制作を始め、寄せられた募金で1千部をつくった。すでに約700部が福島県のボランティア活動拠点など被災地に送られている。

関西学院大人間福祉学部2年の岸田奈美さん(19)＝写真＝には、3年前に病気で下半身まひになった母親のひろみさん(42)がいる。車いすでは踏ん張りがきかず、開けられない引き戸が数多くあることや、進行を妨げる屋内外の段差など、不便が少なくないことをともに生活する中で知った。

そうした中、震災当日に被災地のニュースを見て、母のような車いすの人はどうしているのだろうかと思うと、居ても立ってもいられなくなった。簡易投稿サイトのツイッターを見ると、被災地の障害者らが「どうしたらいいかわからない」などと不安の声をあげていた。困っている障害者の手助けになればと、介助方法の情報を、ホームページやツイッターの医師の意見などを参考にしてまとめた。

リーフレットには、ひろみさんが寝たきりで床ずれに苦しんだことから、皮膚を清潔に保ち2時間ごとに体位を変えるとといった防止方法や、トイレでの介助方法などを盛り込んだ。「人の世話になりたくない」と考える人も少なくないと思い、「何か困っていませんか」と周囲が気遣うことの大切さも書いた。また、発達障害や視覚障害の人たちとの接し方も掲載している。

リーフレットはA5判8ページ。4月までに1千部作成した。出版費用の約2万5千円は、起業している知人の学生らが募金活動して集めた。岸田さんは「普段の生活の中でも活用して、障害者と積極的に接してほしい」と話す。

内容はインターネット(<http://www.mirairo.co.jp/heartchair/index.html#04>)でも掲載している。問い合わせは「株式会社ミライロ」(06・6131・0556)へ。(五十嵐聖士郎)



8月末までに避難所を原則解消…政府が期限明記

読売新聞 2011年5月20日

政府は20日午前の緊急災害対策本部(本部長・菅首相)で、東日本大震災の被災地・被災者への当面の支援策や生活再建策などをまとめた「被災地における生活の正常化に向けた当面の取り組み方針」を正式決定した。

8月末までに避難所を原則解消し、国と地方が連携してがれき撤去にもめどを付けるなど、今後3か月間に実施する施策と目標期限を明記した。

首相は本部会合で、「国の対応が遅いとの意見が被災者から出ていることは承知している。自治体と具体的に調整がつけば、国の力をどんどん出していく」と強調した。

方針では、避難先での高齢者の孤独死を防ぐため、「見守り活動」を行う方針を盛り込んだ。被災者が遠隔地に二次避難する場合、地域のつながりを維持できるよう、受け入れ自治体に求めるとしている。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行